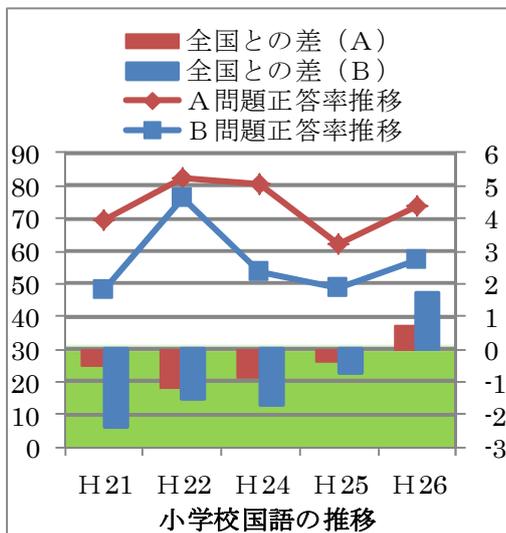


平成26年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント



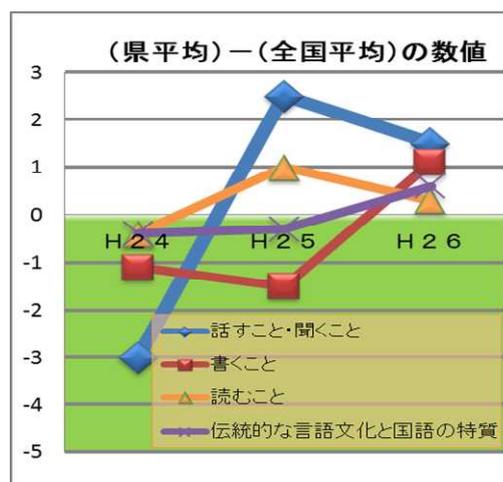
小学校：国語A		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	73.9	72.4	+1.5	
書くこと	73.3	72.2	+1.1	
読むこと	68.8	68.5	+0.3	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.3	73.7	+0.6	
全体	73.6	72.9	+0.7	

小学校：国語B		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	52.5	51.2	+1.3	
書くこと	37.1	34.4	+2.7	
読むこと	59.2	57.3	+1.9	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.1	69.8	+1.3	
全体	57.2	55.5	+1.7	

小学校：国語A

全問題数：15問（選択式7問・短答式8問・記述式0問）

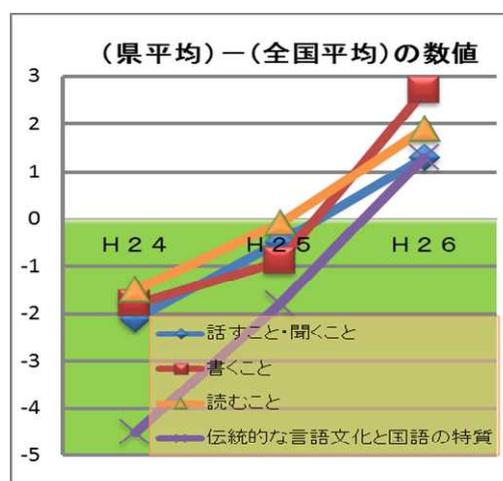
- 平均正答率73.6%（選択式68.3%・短答式78.2%）で、H25年度に比べ上昇している。
- すべての領域で全国平均正答率を上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域の優位性は減少している。
- 漢字の読み・書きは6問中4問で全国平均正答率を下回っている。



小学校：国語B

全問題数：10問（選択式4問・短答式3問・記述式3問）

- 平均正答率57.2%で、全ての領域および全問題で全国平均正答率を上回っている。また、全国平均正答率との差で見ても全ての領域で上昇している。
- 全問題で無回答率が全国平均より低く、特に最後の「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」記述問題では、5.3ポイント低い（正答率では4.3ポイント高い）。
- 全10問中8問で正答率70%を下回っている。



2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

小学校：国語A

(1) 書くこと

①情景描写の効果を抑える。〈指導事項・書くこと3・4年才〉

A③ (正答率 58.6%・全国 58.7%)

<p>3 次は、南田さんが想像したことをもとにして書いている「物語の一部」です。南田さんは、橋本さんから助言をもらっています。あとの「二人の会話の様子」の□の中に入る内容として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。</p>	<p>【物語の一部】</p> <p>良太は、小学三年生の男の子。春休みに、大きな町から引っこしてきました。四月、引っこした先の学校に通い始めましたが、はずかしがり屋の良太は同じ学級の人に声をかけることができませんでした。</p> <p>おだやかな風がふく、ある日のことです。学校から家に帰った良太は、近くの公園に出かけました。その公園は、学級のみんながよく遊んでいる場所です。学級のだれかと会って話をしたくて、そこでじっと待つことにしました。しかし、公園にはだれも来ません。</p> <p>良太は、さびしい気持ちでいっぱいになりました。</p> <p>「こんなところなんてさらいだ。友達なんていないや。」と、小さな声でつぶやきました。</p> <p>（物語が続く）</p>
<p>1 良太の顔の表情</p> <p>2 良太の心の中の声</p> <p>3 良太の周りの風景</p> <p>4 良太の行動</p>	<p>【二人の会話の様子】</p> <p>南田 —— 部では、良太の気持ちを「さびしい」と表現したけど、「さびしい」という言葉を使わずに、うまく表現できないかな。</p> <p>橋本 それならば、その気持ちを□で表したらどうだろう。</p> <p>南田 それはいいね。（しばらく考える。）</p> <p>では、「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」としたらどうかな。</p> <p>橋本 そうだね。そのように書きかえると、「さびしい」という言葉を使わなくても、読み手に良太の気持ちや様子を想像させることができると思うよ。</p> <p>（会話が続く）</p>

- ・「1 良太の顔の表情」を選択した児童は17.5%、「4 良太の行動」を選択した児童は10.1%である。最後の「小さな声でつぶやきました」という言葉から暗い表情を想像したから、あるいはその行動に注目したから、と考えられる。「2 良太の心の中の声」を選択した児童は13.7%である。空欄の直前にある「気持ち」という言葉と「心の中の声」とが結び付いたものと考えられる。いずれにしても【二人の会話の様子】の「いつも間にか～暗くなってきました」の部分をしっかり読んでいないためと考えられる。
- ・読むこととの関連を図り、物語を創作する指導の充実が求められる。創作する上で、表現の特徴とその効果について抑えることは重要で、そのために読むことの授業において、登場人物の心情などが、暗示的に表現されているもの（行動や表情・会話・情景など）も抑えることができるように指導することが求められる。

【参照】「平成26年度全国学力・学習状況調査報告書」30～32ページ

(2) 読むこと

①物語の登場人物の相互関係を捉える。〈指導事項・読むこと 5・6 年エ〉

A 5 (正答率 66.4%・全国 65.3%)

志賀直哉の文章

■物語のこれまでのあらすじ

登場人物は、よし子、フランス人のジョールとその妹のオデットです。二人は、かくれんぼうをして遊んでいます。おにのジョールは、よし子とオデットを同時に見つけました。そこで、二人はジョールに多量に先に見つけたのかたずねています。

5

次は、「かくれんぼう」という題名の物語の一部です。の中には、「よし子」・「ジョール」・「オデット」という人物の名前が入ります。それぞれに当てはまる名前を書きましょう。ただし、同じ名前は一回しか入りません。

ア
イ
ウ

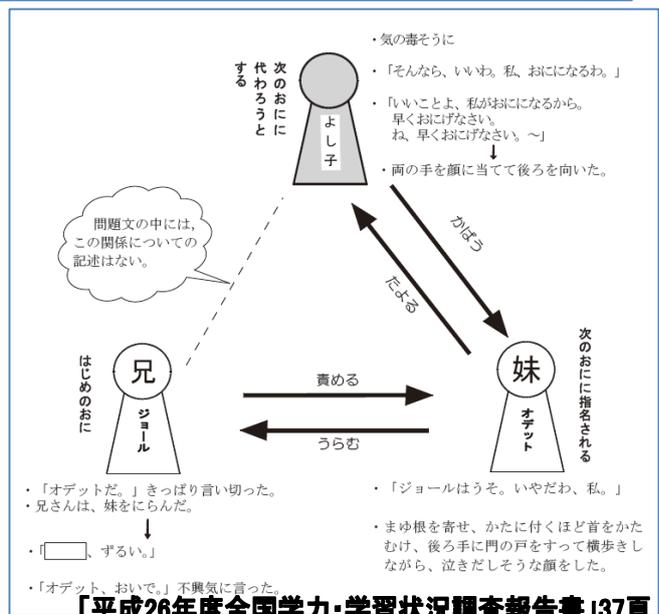
※1 「まゆ根を寄せ」……いやなことに対して顔をしかめること。

※2 「後ろ手」……手を背中に回すこと。

※3 「不興気」……おもしろくない様子。

(志賀直哉「かくれんぼう」による。)

- ・「4年間のまとめ」では、「物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係を捉えること」に課題があると指摘しているが、依然として課題があると言える。
- ・登場人物の人物像や相互関係を捉える指導の充実が求められる。中心人物と周囲の人物について、行動や会話文・情景描写などから、人物像が分かる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。右図は、本問の登場人物を整理したもの。



【参照】 「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」 35～37 ページ

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」 8 ページ

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。

<指導事項・伝国 5.6 年(1)ウ(ア)> **A ㊦二** (正答率 56.4%・全国 59.3%)

- ・正答は「祝」であるが、「ネ(しめすへん)」と「ネ(ころもへん)」のように、形が似ている部首の書き誤りが予想される。
- ・点画の数やとめ、はね、はらいなど、間違えやすいところを特に注意し、書くことができるように指導することが必要である。その際、類似した字形などと比較しながら、正しい書き方を日常的に確認するような習慣を付けることに留意する。

【参照】「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」25・26 ページ

②故事成語の意味と使い方を理解する。

A ㊧ <指導事項・伝国 3.4 年(1)ア(イ)>

(正答率 「一」 67.4 パーセント・全国 55.8% / 「二」 47.6%・全国 49.9%)

- ・故事成語の意味と使い方の理解に課題が見られる。
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は、取り立て指導のほか、そこで習得した知識を三領域の指導の中で繰り返し活用することができるように指導することも必要。

【事例①】説明・報告をする際、故事成語・ことわざ・慣用句を使うという条件で行う(話す・聞く)。

【事例②】物語の創作、随筆などを書く際、故事成語・ことわざ・慣用句を意図的に使う(書く)。

【事例③】文章中の故事成語・ことわざ・慣用句について、辞典や事典等を使って調べる(読む)。

【参照】「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」28・29 ページ

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」7 ページ

1

次の一と二の問いに答えましょう。

二 (1)から(3)までの文の——部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましょう。
(2) 勝利をいれよう。

2

次の一と二の故事成語の使い方として最もふさわしいものを、1から3の中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

一 「五十歩百歩」

1 姉と私は、残りのケーキをどちらが食べるのかでもめていた。すると、母が私たちを注意して、もめごとに関係のない弟に食べさせた。弟にとっては、五十歩百歩だ。

2 私たちの学級では、学年で行われる学級対抗ドッジボール大会での優勝をめざして、ほかの学級よりもずっと前から練習を始めた。だから、優勝できたのは、五十歩百歩だ。

3 山口さんと川島さんが、学校で出された宿題を五回忘れたのか、六回忘れたのかで言い争っていた。このようなことで言い争う二人は、五十歩百歩だ。

二 「百聞は一見にしかず」

1 友達の野村さんは、先生の説明のはじめの部分を知ると、結論まで見通すことができるという。百聞は一見にしかずということができた。

2 私は、夕日が美しいことで有名な海岸を訪れ、その美しさを自分の目で見て実感することができた。まさに百聞は一見にしかずだ。

3 私は、人からいろいろと細かく注意されることがいやだ。しかし、友達に百聞は一見にしかずだと助言されたので、そのことをよく考えてみようと思う。

(1) 話すこと・聞くこと／書くこと

- ①立場を明確にして、質問や意見を述べる。〈指導事項・話すこと・聞くこと 5・6年エ〉
〈指導事項・書くこと 5・6年ウ〉

B 三 (正答率 29.3%・全国 28.3%)

・正答の条件としては以下の3点である。

- ① 手書きの立場に立って質問、意見のどちらかを選択した上でその内容を書いている。
- ② 大野さん②の発言の中の言葉を「 」を使い、25字以内で引用して書いている。
- ③ 書き出しの文に続けて、80字以上100字以内で書いている。

このうち、条件①を満たしている解答は88.3%である。

・主な誤答は、条件②を満たしていないもので、適切に引用して書いていないものである。

(誤答例①) 大野さんの発言に対して意見があります。読みやすさも大事だけど、手書きの字にその人の個性が表れ、もう一度見たときに、学級のみんなを思い出し、なつかしむことができると思います。…**発言を引用していないもの。**

(誤答例②) 大野さんの発言に対して意見があります。「パソコンで見やすくする」とありましたが手書きでもますがある紙に書けば、読みやすく、きれいに書けるのではないかと考えましたがどうですか。…**「 」はあるが、大野さん②の発言を引用していないもの。**

(誤答例③) 大野さんの発言に対して意見があります。手書きだった去年の卒業文集には読みにくいところがありましたが、全員が読みにくいとは思わないと思うので手書きがいいと思います。…**引用はしているが、「 」を使っていないもの。**

等、引用の仕方が間違っているものである。

・相手の発言を引用して質問や意見を述べることに課題があり、指導の充実が求められる。「4年間

二 原田さんと野口さんは、書いたふせんを整理しながら「疑問」に対するまとめを書いていきます。「野口さんのまとめ」の「B」の中には、どのような内容が入ると考えられますか。ふさわしい内容を、「原田さんのまとめ」の書き方を参考にし、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「野口さんのふせん」③と④の両方の内容を使って書くこと。
- 「野口さんのふせん」⑤の内容については「科学読み物」の「部」の二文を一文にして書くこと。また、⑥の内容については「例えば」という言葉を使って書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、百字以上、百二十字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

【原田さんの疑問】

「分かったこと」

- ①鼻は、今よりも短かったが、体がだんだんと大変化し、口が地面からはなれていったようだ。
- ②鼻とよちよちびるが、いっしょに長く伸びていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったようだ。
- ③長い鼻を使うことで、できること。(食べ物をつかむ、水をすいあげて飲む、水浴び、あいさつ)
- ④鼻の短い動物の鼻の役目は？
・カバやブタは、鼻を使って何ができるのか。

【新たな疑問】

「原田さんのまとめ」

ぼくが、ぎ間に思った「A」ということについて、次のことが分かった。大昔のゾウの鼻は、今のゾウの鼻よりも短かったが、体が大型化し、口が地面からはなれていったようだ。そして、鼻とよちよちびるが、いっしょに長く伸びていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったようである。長い鼻を使うことで、食べ物をつかんだり、水をすいあげて飲んだりすることができる。また、水浴びや、あいさつをすることもできる。調べていくうちに新たなぎ間も出た。鼻の短い動物の鼻の役目は何かということだ。例えば、カバやブタは鼻を使って何ができるのか調べたい。

【野口さんの疑問】

「分かったこと」

- ①長いからといって、においを感じ取ることはできないわけではない。
- ②二、三キロメートル先のおいをかぎ分けるともいわれている。
- ③すぐれた鼻を使うことで、
- ④においを感じ取ることにすぐれた動物はどのような動物か？
・イヌは、どれくらい先のにおいを感じ取るのか。

【新たな疑問】

「野口さんのまとめ」

わたしが、ぎ間に思った「ゾウの長い鼻は、においを感じ取ることができるのか」ということについて、次のことが分かった。ゾウの鼻は、長いからといって、においを感じ取ることができないわけではない。二、三キロメートル先のにおいをかぎ分けるともいわれている。すぐれた鼻を使うことで、

- ・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くこと、目的に応じて必要となる情報を取り出しそれらを関係付けて読むことの二つの課題があり、指導の充実が求められる。
- ・具体的には以下のことを整理し、条件に従ってまとめる力が求められる。

第五段落

すぐれた鼻を使うことで、水場や食べ物を探することもできます。また、においのちがいで仲間を見つけることもできます。

①長いからといって、においを感じ取ることができないわけではない。

②二、三キロメートル先のにおいをかぎ分けるともいわれている。

③すぐれた鼻を使うことで、
条件…第五段落を一文で書く。

④においを感じ取ることにすぐれた動物はどのような動物か？
・イヌは、どれくらい先のにおいを感じ取るのか。

【野口さんのまとめ】

わたしが、ぎ間に思った「ゾウの長い鼻は、においを感じ取ることができるのか。」ということについて、次のことがわかった。

ゾウの鼻は長いからといって、においを感じ取ることができないわけではない。二、三キロメートル先のにおいをかぎ分けるともいわれている。

Bの条件

- 書き出しは「すぐれた鼻を使うことで、」とする。
- 100～120字
- ④の内容については「例えば」という言葉を使って書くこと。

(誤答例①) すぐれた鼻を使うことで水場や食べ物をさがすこともできます。また、においを感じ取ることによって仲間を見つけることもできます。調べていくうちに新たなぎ間も出た。におい

を感じ取ることにすぐれた動物はどのような動物か。例えばイヌはどれだけ感じ取るのか。…「ふせん③」を一文にしていない。

(誤答例②) すぐれた鼻を使うことで水場や食べ物をさがすことができ、においのちがいで仲間を見つけることもできる。このように調べていくうちに新たなぎ問も出てきた。においを感じ取るのにすぐれた動物はいるのか。イヌはどれくらい先のにおいを感じ取るのか。

…「例えば」を使用していない。

(誤答例③) すぐれた鼻を使うことで水場や食べ物を見つけたり、仲間のにおいをかぎ分けて見つけたりできる。例えば食べ物をつかんで口に物を運んだり、水をすいあげて飲んだりする。また、鼻をシャワーにしたり、鼻をからませてあいさつしたりすることが分かった。

…「野口さんではなく、原田さんのふせんのまとめになっている。」

【参照】「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」62～65 ページ

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」11・12 ページ

②二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く。

<指導事項・書くこと 5・6 年ウ> <指導事項・読むこと 5・6 年エ>

B ③ 三 (正答率 54.4%・全国 48.1%/無解答率 20.7%・全国 26%)

三 あなたは、「詩1」と「詩2」を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。
- 「たんぽぽ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。
- 八十文字以上、百字以内にもっと書いて書くこと。

北川さんの学級では、まど・みちおがたんぽぽを題材にして書いた「詩1」と「詩2」を比べて読み、考えたことについてグループに分かれて交流することをしました。この二つの詩と「グループでの交流の様子」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【詩1】たんぽぽ

【詩2】たんぽぽさんがよんだ

まど・みちおの時



・二つの詩を比べて読み、条件に合わせて適切に書くことに課題があり、指導の充実が求められる。

・正答の条件は以下 3 点である。

- ① 詩の内容や表現の仕方などについて共通点や相違点を取り上げ、自分の考えを書いている。
- ② 「たんぽぽ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書いている。
- ③ 80 字以上 100 字以内で書いている。

このうち、③の字数の条件を満たしていないものは 7.1%で全国値の 7.6%を下回る。正答値（県

54.4%・全国 48.1%) 等と合わせて考えると、制限字数内の文章を書くことについては比較的良好であると考えられる。

- ・無解答率は 20.7%で、全国値から 5 ポイント以上低く、また、児童質問紙からも授業改善が進んでいることがうかがえる。

※児童質問紙について

質問	H25	H26
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	57.7%	59.5%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	54.3%	56.2%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	67.8%	70.2%
全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	71.6%	77.3%

【参照】 「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」 75～77 ページ

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」 13・14 ページ

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

(1) 単元を貫く言語活動を設定した授業づくり

- ・国語科は付けたい力を教えるのではなく、言語活動を通して、指導事項を指導し、付けたい力を付けていく教科であるので、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は高まらない。ゆえに単元を貫く言語活動を設定した授業実践の一層の充実が必要である。

(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

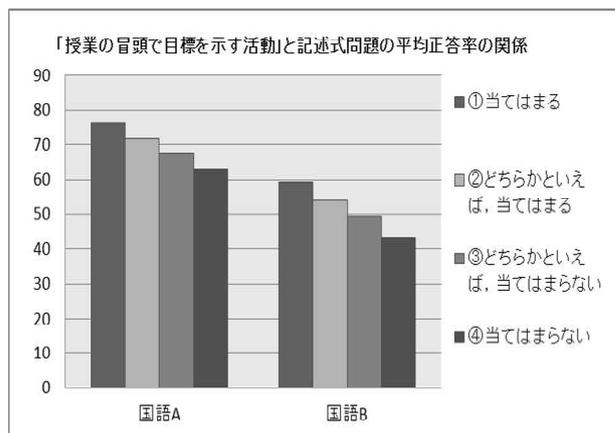
- ・必要な情報を素早く見付ける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を経験させるような指導が大事である。そのためには、多様な図書資料等を用い、目的に応じた読み方を身につけさせる活動の充実を図ることが必要である。
- ・情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを書く活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置付けることが必要である。

・物語などの文学的な文章では、登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながらか読むことが重要である。そのためには、中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像が分かる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。その際、その中心人物を取り巻く登場人物がその中心人物をどのように見ているのか、物語の進行に伴ってどのように変化していくのかに着目できるようにすることが大切である。

(「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」 9 ページより)

(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ・具体的な評価規準に基づき「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。
- ・「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示された」児童や「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行った」児童ほど平均正答率が高い傾向がある。学習の見通しをもたせ、学習の意味づけをさせることが有効と言える。



(4) その他、国語科授業で取り組むべきこと

- ・記述する力を高めるために様々な場面で「書く」活動を設定する。
記述の指導は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。

例（話す聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿

（書くこと）手紙、礼状、依頼状、記録、報告、紹介、説明、詩、短歌、俳句、物語、随筆

（読むこと）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見）を明確に書くこと。

目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・条件に即応して記述しなければならない場面を設定する。
時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構成等、条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

- ・司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら話合いの観点を整理する指導の充実
目的や意図に応じて計画的に話し合うために、司会は重要な役割をもつ。特に、話し手の発言を受け止め、適切な観点を明確にしていくことが重要である。そのために司会者には、まず発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えることができるように指導することが大切である。さらに、複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類・整理するなどして、適切な観点を設定できるように指導することも大切である。各教科等との関連も図りながら、全員が司会の役割を経験する機会を設けるなどして、具体的に指導することが重要である。
- ・故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で用いる指導の充実
故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で起こる出来事や、その様子を故事成語を用いて表すことは重要である。そのためには、長い間使われてきた故事成語に興味をもち、その意味を調べてカードに記録するなど、先人の知恵や教訓、機知に触れることができるように指導することが大切である。その上で、実生活の中で意図的に活用する機会を設けるなどして、計画的に指導することが重要である。

（「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」9 ページより）

- ・学習用語の確実な定着を重視する。
教科書の巻頭・巻末等にまとめられている学習用語は、その学年で確実に指導することが大切で、一度学習した用語は授業で使う。指導者があいまいな言葉を使わない。

(5) その他、学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠。また、言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書・事典等を使って、なじみの薄い語句・使用頻度の低い漢字を積極的に調べる機会を設ける必要がある。その上で、言語活動の中で調べた語句等の定着を図ることが大切である。
- ・国語科問題データベースを活用して、学校全体で計画的に取り組むことが望まれる。



全校体制で取り組む10のポイント

1 全職員で調査問題の趣旨(メッセージ)を確認する。

- ①まずは、問題を教師自身が解くことから始める。
- ②どのように思考・判断し、どんな記述の力が必要かを体感する。

2 全職員で調査問題の結果を分析し、課題の所在を話し合う。

- ③子どもたちの弱点を知ることが大切にする。(特に「4年間のまとめ」の活用)
- ④誤答傾向や不十分な解答に指導改善のヒントを得る。

3 全学年を通じて、年間の見通しの中で課題を解決する。

- ⑤調査問題を教科書教材と関連付ける。
- ⑥自校の年間指導計画(例：備考)の中に課題を明記(朱書き)する。
- ⑦上記⑤・⑥と同時に授業で活用できる資料を明記する。

4 調査問題や調査結果を活用した授業を構想する。

- ⑧B問題の設計や構成そのものを授業づくりのヒントにする。
(特に条件に即した記述への手立て～三領域における記述力の重視)
- ⑨授業アイデア例BOXを授業づくりのヒントにする。

5 学習指導要領国語の目標や内容の実現を第一義とする。

- ⑩「言語活動を通して指導事項を指導する」という基本方針を踏まえる。